

# 小学校国際協働学習(TBP)を支援する大学生の関わり

～ユースプロジェクトとして大学生の学び～

金沢星稜大学 清水和久

2024年度清水ゼミの学生は、日本の小学校4校11クラス+1地域と台湾の小学校4校11クラスとの国際協働学習の支援を行った。支援内容は8つ、1)導入時の「100人村」ワークショップ、2)地域の子供のためのワークショップの開催、3)日本と台湾の教師間のLINEグループでの支援、4)児童間の交流用としてPadletの運用、5)zoom会議支援、6)大学生による台湾の交流小学校への代理訪問、7)帰国後の小学校での台湾報告会(360度映像の活用)、8)月1回の大学生と日本の先生との情報交換会。これらの8つの活動を通して小学校国際協働学習の支援を行った。

国際協働学習 テディベアプロジェクト 台湾 360度カメラ VR ゴーグル

## 1. はじめに

毎年、金沢星稜大学の清水ゼミの3回生が、JEARN\*1のユースプロジェクトの一環としてテディベアプロジェクトに参加する小学校の支援を行っている。毎年のTBP(テディベアプロジェクト)のルーチンワークの他に、今年度特に力を入れたことは、1番目として小学校だけではなく、地域の子供会を巻き込んでのワークショップ形式のTBPを実施できたこと。2番目として台湾から帰国後の報告会の内容の工夫である。学生の台湾訪問時に360度カメラで交流校の様子を撮影したものを、日本の児童にVRゴーグルを活用して視聴させることができたこと。3番目に2校7クラスの小学生にアンケートをとり、児童の生の反応を得たことである。外部の者が直接児童にアンケートをとることは難しいが、今回はそのデータをとることができた。

学校の多忙化にとまならない、外国の交流相手校と時間をかけながら行う国際交流プロジェクトは実施が難しくなってきた。しかし、小学校での外国語の教科化などで、英語を使う必要を感じさせる場も必要となってきた。このような状況下で、膨大な労力をかけず、且つ自分のクラスの裁量である程度進めることができるプロジェクトが必要とされる。

TBPは、自分たちの代表としてぬいぐるみを送り、交流校からも送ってもらい、互いのぬいぐるみの滞在記を通して地域紹介や異文化理解を図るプロジェクトである。

ぬいぐるみを交換留学させたあとは、そのぬいぐるみを通しての活動となり、ある程度活動は自校に任されており、過密な日本の教育カリキュラムの中でも、交換後の活動は、各校のカリキュラムの中に組み入れることは容易である。

## 2. 目的と方法

### 2-1 目的

日本と台湾の小学校との国際協働学習であるTBPに大学生が関わり、両国の先生同士の交流を支援することで、大学生自体の学びと日本の小学校側(教師と児童)の学びを明らかにする。

### 2-2 方法 8つの活動ステップ

#### 1) 大学生と小学校との関わり

大学と小学校との関係図(2024年度)

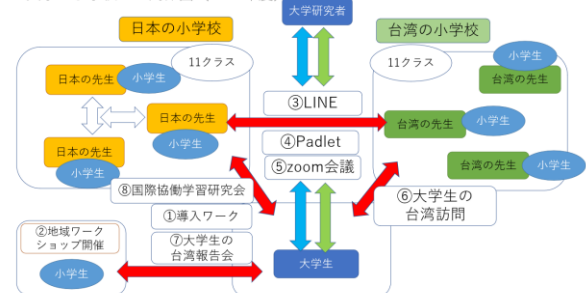


図1 大学生の支援構造図

関わり方の支援内容

#### ① プロジェクト導入授業の実施

世界に対する関心を小学生に持ってもらうための大学生のワークショップの実施

#### ② 地域の小学生とのワークショップの実施

小学校単位でなく、地域のワークショップとしてTBPの模擬体験の実施

#### ③ 教師間の日常的LINEグループでの支援

日本と台湾のクラスごとのグループLINEを作成し情報交換の場とし、担当の大学生も1名ずつ参加

#### ④ Padlet(掲示板の活用)

ベアの日々の滞在の様子を伝えるために活用。担当クラスの大学生が管理を行う

#### ⑤ Zoom会議支援

少人数Zoom会議では、会の進行支援を行うが、あくまでも。

#### ⑥ 学生による台湾の交流校への訪問

台湾の交流校に日本の小学生のクリスマスカードを届けるとともに、現地校を360度カメラで撮影する。

⑦ 日本の小学校への台湾報告会の開催

台湾の訪問の様子をより理解してもらうためのワークショップの実施。VRゴーグルを通して台湾で撮影した360度動画の視聴。

⑧ 日本の先生と学生とのzoom会議

プロジェクト参加の日本の先生と、清水ゼミの学生（7人）は筆者も含めて月1回zoom会議を持ち進捗状況の報告や課題についての情報交換会を実施

2) 活動計画

表1 基本的な年間活動日程

| 月   | 小学校児童の意識                 | 教師の動き                     | 研究会の内容        |
|-----|--------------------------|---------------------------|---------------|
| 4月  | 学習の見直しを持つ                | 国際協働学習の動機づけ               | ⑧月1回のzoom研究会  |
| 5月  | 交流相手の台湾について知る            |                           | 第1回目 顔合わせ     |
| 6月  | ①100人村ワーク体験              | ③ 交流校とLINEグループ作成          | 発信情報の蓄積方法の共有  |
| 7月  | 発信内容の調査                  | 地域情報の蓄積                   |               |
| 9月  | ペアの性格付けをして送付準備           | 台湾の交流児童との組み合わせ決定          | 第2回目：送り方見直し   |
| 10月 | 台湾からペアの到着<br>④ Padletの活用 | ②地域ワークショップ<br>ペアとの活動の話し合い | 第3回目：ペアの活用法   |
| 11月 | ⑤zoom会議1 自己紹介            | TV会議練習 大学生を練習相手に          | 第4回目：課題と解決方法  |
| 12月 | ⑥大学生の台湾訪問 X'masカード交換     | 英語のカード作成                  | 第5回目 SDGsのテーマ |
| 1月  | zoom会議2 発表会              | SDGs関係の内容について             |               |
| 2月  | ⑦大学生の報告会ペアの返却と帰国         | 振り返り                      | 第6回目：振り返り     |



図2 年間計画の進行図

3) アンケート調査と結果

・児童に対する調査（7クラス 162人）

3. 活動内容

以下支援内容について時系列に沿って述べる。

3-1 プロジェクト導入授業の実施

小学生が国際的なことに興味を持てるようにするために導入授業として「世界がもし100人の村だったら」\*2のワークショップを大学生が小学校への出前授業としておこなった今年度は4

校で実施。大学生は、国際状況を学習したうえで、小学生に訴えたいものを決め、いろいろな国の服装を身につけて、世界の富の偏りや識字率の問題などをクイズ形式でおこなった。参加する小学生は世界の住民になって指示に従って動く体験型のワークショップである。



図3 100人村のスライドの一部

学生の似顔絵をbitmoji\*3のアプリで作成しスライドの中で使うことで、親しみやすくしている。世界で話される言語の種類としては人口の多い中国で話される中国語が一番多いのであるが、学校で学ばれる言語も入ると英語が一番多くなる事実から、英語の必要性を理解してもらう。また、富の偏在では、平等に分配すれば、富はいきわたるのに、人口の20%の人が世界の富の8割を所有していることを学び、知ることの重要性を訴えた。このワークショップをきっかけに、児童に世界のことを知る重要性を理解し、実際に台湾の小学校との国際交流のスタートとした。小学校4校でTBPは実施できた。

3-2 地域TBPワークショップの開催



図4 志賀町でのワークショップの開催

小学校単位で行うのではなく、国際協働学習やICTに興味のある地域の児童を集め、現地の組織「くまの地域づくり協議会」との共催で年3回のワークショップ（TBP及び小学校英語）を計画。（残念ながら3回目は大雪のため中止）

- 1回目 TBPワークショップ
- 2回目 英語を使ったクリスマスカード作り
- 3回目 台湾報告会（大雪のため中止）

内容

1回目：台湾用ペアの準備と台湾の情報収集

- ・テディベアの自己紹介カードの作成
- ・台湾の観光地を巡るドローン操作体験
- ・VRゴーグルで台湾旅行の体験。

## 2回目 クリスマス会

- ・台湾の児童へ送るクリスマスカードの作成と英語のゲーム（本大学で実施）

## 3回目 台湾報告会（大雪のため中止）

- ・台湾での大学生の体験をクイズで紹介
- ・録画してきた VR 映像の体験

これまでは学校単位の TBP への支援であったが、今年は地域の子供会でのワークショップを実施、地域ベースでのワークショップ開催の可能性も感じる事ができた。

### 3-3 台湾の先生との LINE グループでの支援

LINE は日常的に台湾でも使われており、先生同士の情報交換では使いやすい。言語の問題は LINE に中国語の繁体語のアプリを参加させることで、日本語と中国語（繁体語）の翻訳がスムーズになった。また日本と台湾の LINE のグループに学生と研究者も参加することで、交流の進行具合を把握できる。学生の役割は、書き込みがあった場合に、忙しい先生の代わりにすぐその内容に反応して、会話がスムーズに進むようにすることである。

### 3-4 Padlet の活用

LINE は先生同士の連絡に日常的に使って便利であるが、それだけでは児童が相手とつながっている感じを持つことができない。そこで、互いの国の児童同士は、送られたきたテディベアの滞在の様子などを写真にとって交流のために使用した。ここでも大学生が Padlet の管理を行い、メニューやスレッドを立てて、互いの児童の書き込みを支援した。



図5 Padletによる交流の様子

### 3-5 少人数 zoom 会議での支援

Zoom 会議の、1 回目の自己紹介は小グループ対小グループで行った。高学年は週 2 回の英語があり、5年生はユニット①“Hello friends”で、6年はユニット①“This is me”で自己紹介を英語で各単元があるが、これを実際に台湾の児童と小グループで言い合う場面とした。クラス対クラスの全体 zoom では、なかなかやりにくいが、小グループならではの自由にやり取りを行うことができた。タブレット PC を使うことで、写真なども活用できるので、アドリブでも臆せず会話を進めていた。すべてのグループに教員が同

時に付くことはできないので、学生が遠隔で zoom に入り、会話が止まっているところには、「どちらの発言の番か」などを確かめて話を進めるようにアドバイスした。

小学校高学年では

### 3-6 大学生の台湾訪問

#### 3-4-1 台湾の小学校 4 校への訪問

2024 年度は筆者のゼミ生 7 人が台湾を訪問。9 日間の日程（12 月 27 日ー1 月 4 日）台湾の正月は 2 月のため、元旦以外は学校で授業がある。

表 2 台湾の小学校訪問日程

| 日     | 内容  | 備考                         |
|-------|-----|----------------------------|
| 12/28 | 移動日 | 前日 金沢→大阪（泊）<br>関空→台湾桃園空港   |
| 12/29 | 台北市 | 九份・十分探索                    |
| 12/30 | 台北市 | ・五常小訪問・授業参観                |
| 12/31 | 台北市 | 日新小教諭との昼食会<br>年越しイベント      |
| 1/1   | 嘉義市 | 移動日                        |
| 1/2   | 嘉義市 | ・精忠小訪問・授業参観<br>・宣信小訪問・授業参観 |
| 1/3   | 高雄市 | ・新甲小訪問・授業参観                |
| 1/4   | 高雄市 | 旗津島、高雄港探索                  |
| 1/5   | 移動日 | 桃園空港→関空→金沢                 |

#### ○1 校目 五常小学校（12 月 30 日）

五常小は台北市にあり 1 校 2000 人規模の大きな学校である。この小学校との交流支援は 5 年前から行っており、国際交流を学校の特色の 1 つとして打ち出している。交流校に学生が入り、日本文化の紹介や、日本の小学校から頼まれた質問などを行った

表 3 五常小訪問日程

|   | 内容             | 詳細                 |
|---|----------------|--------------------|
| 1 | 会議 自己紹介        | 児童による学校紹介          |
| 2 | 6年2組参観         | 日本紹介と活動            |
| 3 | 6年4組<br>5年2組参観 | 日本紹介と活動            |
| 4 | 図工授業参観<br>昼食   | 正月飾りの作成            |
| 5 | 会議<br>(感想交換)   | 学生の感想、及び、質問などの意見交換 |



図6 五常小の教室で日本紹介をする学生

○第2校目 嘉義市精忠小学校（1月2日午前）



図7 精忠小 カラフルなデザインが特徴  
この学校ともずっと TBP を行っている、学年 2 クラス嘉儀市では小規模な学校ではあるが、毎回歓待してくれる。この学校の 5, 6 年の 4 クラスと交流を行っている。

表4 嘉儀市精忠小学校訪問日程

| 時間          | 活動内容  | 協助人員/備註                         |
|-------------|---|---------------------------------|
| 8:50-9:20   | <b>接待準備</b><br>- 清水教授と助教抵達後前往校長室。<br>- 實習教師前往四樓會議室放置個人物品。 | 淑玲老師、洪佳好老師、雅蓮老師協助接待及翻譯。         |
| 9:20-9:30   | <b>入班準備</b><br>- 實習教師依活動安排準備進入班級。                         | 洪佳好老師、雅蓮老師協助翻譯；淑玲老師巡視各班並協助翻譯工作。 |
| 9:30-10:10  | <b>班級交流活動</b><br>- 日本實習教師與五、六年級學生進行互动交流。                  |                                 |
| 10:30-11:10 | <b>觀課活動</b><br>- 清水教授與助教分為兩組，參觀五乙英語課與三甲雙語體育課（輪流進行）。       | 淑玲老師與洪佳好老師各協助一組進行翻譯工作。          |
| 11:20-12:00 | <b>交流座談會與校園導覽</b><br>- 與實習教師進行交流座談會，並導覽國小部校園環境。           | 雅蓮老師協助姊妹校簡報分享，淑玲老師協助座談翻譯。       |
| 12:00-12:40 | <b>午餐時間</b><br>- 實習教師依分組至各班用餐。<br>- 清水教授與助教在校長室享用午餐       | 午餐秘書協助提供日本師生及翻譯教師餐具和餐盤。         |
| 12:40-13:00 | <b>移動行程</b><br>- 從精忠國小出發，前往宣信國小參訪下一行程。                    | 楊校長、蔡主任及正偉老師協助交通接送              |



図8 バイリンガル体育の授業  
嘉儀市ではバイリンガル教育がされていた。ここでは嘉儀大学の大学院で学んでいる学生が、小学校の体育でヨガを教えていた。指示は英語である。体育は体を動かすので英語の指示が十分わからなくても、まねすることで可能である。嘉儀市では、外国籍の留学生を積極的に活用しており、小学校でバイリンガルの授業に採用しているそうである。いろいろな国の英語を聞かせることで、共通語としての英語の重要性を感じることができる。英語を使ったバイリンガル教育は、体育、音楽、図工などのから 1 科目選んで学校裁量で行っている。学生も体育の授業に混ぜてもらって授業を受けた。指示は英語であるが、体育なのでわかりやすい。  
○第3校目 嘉儀市宣信小学校（1月2日午後）



図9 荘厳な宣信小の玄関  
この学校は白熊をモチーフとした有名なイラストレータ「莊信棠」（SMART）を輩出した学校で、学校の中にも「沉睡大白熊」をモチーフにしたデザインされたトイレがあり、各階ごとに春夏秋冬の森林を表している。



図10 白熊の絵のあるトイレ

表5 嘉儀市宣信小学校訪問日程

|             | 内容               | 詳細           |
|-------------|------------------|--------------|
| 13:40-14:20 | 交流クラス<br>プレゼン    | 3クラス         |
| 14:20-15:00 | 英語の授業参観          | フォニックス       |
| 15:00-15:30 | 児童による英語でのスクールツアー | 学校の周囲のモニュメント |

児童が日本の学生に対して英語で学校の周囲にあるモニュメントの説明を行った。この学校は昔の競馬場の跡地にあり、馬に関するモニュメントが残されている。地域とのつながりを児童が説明できるようにしていることは、地域を愛する心を育てる上で重要であり、英語で説明することで外国の訪問客へのアピールになるので、日本でも見習いたい場面である。



図11 英語でモニュメントの前で説明する児童  
○第4校目 高雄市新甲小学校（1月3日）



図 12 新甲小学校の門

台湾の南部の高雄市にある小学校、日本だけでなく、いろいろな国と交流をしている。クリスマスの英語のダンスで迎えてくれた。この小学校も毎年温かく迎えてくれる学校である。

表 6 高雄市新甲小訪問日程

|       | 内容    | 詳細    |
|-------|-------|-------|
| 12:00 | 昼食会   |       |
| 13:00 | 校内紹介  | ダンス紹介 |
| 14:00 | 交流授業  | 1クラス  |
| 16:00 | 博物館見学 |       |

どの小学校でも歓迎され、台湾の小学校英語の授業にも実際に参観することができた。台湾では英語は専科が教えており、週 3 時間の授業が行われていた。これから小学校教員を目指す大学生にとっても参考になるものであった。

### 3-7 台湾報告会



図 13 台湾の 360 度映像を視聴する児童

日本に帰国後、大学生は、台湾の小学校の様子を伝える報告会を行った。大学生は 1 人が 1 つのクラスを担当しており、日本の各クラスで、台湾クイズを実施。昼食後の午睡の話や、給食の内容などについてクイズ形式で報告を行った。また、時間が取れるクラスでは、台湾で撮影してきた 360 度映像を VR ゴーグルで視聴する機会も持った。360 度映像は YouTube にアップしたものを視聴してもらった。交流校の玄関から入っていく動画などを視聴することによって、まさに訪問した気持ちになれるので、児童は歓声を上げていた。また、台湾の年越しの花火や有名な観光地九分、十分もメニューに加えた。

### 3-8 日本の先生と学生との zoom 会議

国際交流が初めての先生もいるので、交流期間中以下の 6 回の会議を持った。

- 1 回目 5 月 顔合わせ会
- 2 回目 9 月 ベアの郵送について
- 3 回目 10 月 ベアを使った滞在記
- 4 回目 11 月 zoom 会議ノウハウ
- 5 回目 12 月 交流の課題について
- 6 回目 2 月 まとめ

先生方の負担を考慮して、管理職に許可をもらって、16 時から 1 時間の勤務時間内の開催とした。本来は TBP に参加しているすべての先生に参加していただきたかったが、多忙の折毎回の参加者は学校から 1 名のことが多かった。

## 4 活動の評価（児童のアンケートより）

### 4-1 児童アンケート（2校 7クラス n=162）

方法：選択肢から複数回答を選択（数字は%）

#### ① 「100 人村ワーク後の気持ちは？」

- ・世界の問題についてもっと知りたい (63%)
- ・英語を学ぶことは大切・必要 (53%)
- ・世界の問題を協力して解決する必要 (50%)
- ・日本の良さに気づいた (47%)
- ・もっと英語を学びたくなった (30%)

100 人村を行うことで世界の事に興味を持ち、英語が必要だと感じる事ができているが、まだ、英語を積極的に学びたいという意欲までにはつながっていない。開発途上国の子供たちの環境を知ることによって日本の良さに気づいている。

#### ② 「台湾との zoom 会議後の気持ちは？」

各項目を 4 件法で聞き、上位プラス評価の割合

- ・相手の文化を知れてよかった (94%)
- ・コミュニケーションが取れて楽しい (94%)
- ・相手の反応が見られておもしろかつ (93%)
- ・自分の英語が伝わってよかった。 (88%)
- ・英語を話す自信がついた (75%)
- ・英語が伝わらなくて悔しい (54%)
- ・相手の英語が理解できなくて悔しい (56%)

zoom を小グループで行い、タブレットも使って自由に交流を行うことで、自分の意思を伝え、相手の考えを知ることにつながった。コミュニケーション自体を楽しみ、英語を話すことに自信を持てた子が多い。

#### ③ 「台湾との zoom 交流の満足度は？」

- ・とても満足 (38%)
- ・満足 (49%)
- ・どちらかという満足 (10%)
- ・どちらかという不満足 (3%)

3 つを合わせたプラス評価は合計 97% であり、zoom 会議の満足度は極めて高い。

#### ④ 「交流でやってよかった活動は？」

7 つの活動の項目から複数選択

- ・zoom での会話 (69%)
- ・ぬいぐるみの交換 (51%)
- ・100 人村のワーク (50%)
- ・大学生による台湾報告会 (46%)

- ・台湾の VR 視聴体験 (46%)
- ・カードの交換 (44%)
- ・交流相手へのカード作り (39%)

Zoom での交流の印象が最も強い。また、送られてきたぬいぐるみが教室にいて相手に意識することができたと思われる。

#### ⑤「交流を通して感じたことは？」

各項目についての 4 件法で選択し、上位 2 つのプラス評価の合計の%の項目の上位順

- ・英語の大切を感じた (94%)
- ・台湾の子供たちとつながりを感じた (93%)
- ・英語を学んでいてよかった (92%)
- ・英語をもっと話せるようになりたい (90%)
- ・自国の良さがわかった (90%)
- ・自国の良さを外国に伝えたい (90%)
- ・外国の文化や問題について知りたい (88%)
- ・世界のために行動したい (86%)
- ・台湾との交流は自分の役に立つ (85%)
- ・海外に行ってみみたい (77%)

台湾の児童との交流に習っている英語が必要だと強く感じていることがわかる。この交流で英語に対する興味関心を高めることができると思われる。

#### ⑥「交流を通して自分に着いた力は？」

8 つの選択肢から選ぶ (複数回答可)

- ・積極的なコミュニケーション力 (67%)
- ・英語を話す力 (65%)
- ・伝わるように自分を表現する力 (60%)
- ・異なる国の人と協力する力 (55%)
- ・多様な価値を受け入れ尊重する力 (43%)
- ・世界の出来事を自分事と考える (36%)
- ・様々な視点から物事を見る (32%)
- ・課題を見つけ解決する力 (30%)

自己評価ではあるが、コミュニケーションには自信を持った児童が多いことがわかる

## 5. まとめ

### 4-1 支援にかかわった学生の観点から

今回の交流のメインの役割を担った 3 年生は、6 月から小学校へ出向いてのワークショップから始まり、台湾と日本の先生との LINE グループで交流の動向をサポートし、Padlet を使った児童同士の掲示板づくり、台湾と日本の子ども同士の WEB 会議にもネット上で立ち会い、12 月末に台湾の交流校を訪れて、ずっとサポートしてきた台湾の子供たちにメッセージを伝えた。また、帰国後は自分の経験をまとめ日本子どもたちに、伝えることができた。これからの教員として歩む上での大きな自信につながったはずである。

実際、台湾に行き、台湾の実用的な英語教育の先進性を感じた学生が多かったようである。また 3 年生は海外旅行が初めての学生が多く、

プレッシャーを感じる中で同行したメンバーとの協力体制の重要性を感じたようである。台湾の一般教員は異動希望を出さない限り同じ学校に勤め続けることが多く、今回のつながりが、教員になってからの国際交流につながる可能性も高い。また教員になった時に子供たちに台湾のことを話せる生きた教材となる。

表 7 項目別大学生と小学生・担任の学び

|   | 項目              | 支援を行った学生の学び  | 小学校側の学び (教師、児童)                       |
|---|-----------------|--|---------------------------------------|
| 1 | 100 人村ワークショップ   | ・国際情勢の理解<br>・ワークショップの企画力<br>・児童の前で演技する力                  | ・国際情勢の理解<br>・英語の必要性の理解<br>・外国への興味の拡大  |
| 2 | 地域ワークショップ       | ・TBP を説明する力<br>・TBP のワークショップの実施力                         | ・英語への興味<br>・ICT を活用した交流のイメージ化         |
| 3 | 教師間の LINE の会話   | ・交流の進行状況の把握<br>・会話に対する反応力<br>・スムーズな交流の進め方                | ・日常的に日本の教師が外国の教師と協働する力<br>・外国に対する発信力  |
| 4 | 児童間の Padlet の交流 | ・掲示板の立ち上げ方とスレッドの立て方など<br>・掲示板の運用力                        | ・ペアの日々の様子を写真でアップする発信力<br>・相手の情報を受信する力 |
| 5 | Zoom 支援         | ・zoom での支援的立場からの介入の方法<br>・日程調整力                          | ・タブレットの活用力<br>・児童が臨機応変に zoom 会議を進行する力 |
| 6 | 台湾への訪問          | ・日本文化のプレゼン力<br>・外国の地での対応力<br>・360 度動画の編集力<br>・対面での英語の会話力 | ・台湾に行く学生に託すミッションの作成<br>・台湾への興味の拡大     |
| 7 | 台湾報告会           | ・台湾紹介のプレゼン力<br>・VR ゴーグルの視聴の仕方の説明                         | ・大学生の台湾の話の理解<br>・VR ゴーグルでの台湾訪問疑似体験    |
| 8 | 月 1 の会合         | ・担当の校先生との良好な関係<br>・担任との打ち合わせ                             | 教師側<br>・台湾との交流の見直し<br>・クラス活動の見直し      |

### 4-2 全体を通して

小学校においても、学んだ英語を必然性のある環境で使って自分の意思を相手に伝え、相手の意図をくみ取る力は重要になってくる。

またオンラインの国際交流を補完するものとして、実際に相手を実感できる物 (ぬいぐるみ等) が必要であり、自分の思いを託せる人 (大学生) の直接交流体験を聞くことで間接的に異文化理解の質を高めることにつながると感じた。

教員を目指す大学生が国際協働学習 (TBP) を実施するための 8 つのステップの支援を体験できた。特に大学生自身が小学生の代理として台湾の交流校に出向き、台湾の小学校の授業に参画し、台湾の小学生及び教師と交流した体験を日本の小学生に伝えるということは、日本の小学生に対して生きた国際協働学習の教材の提供につながり、学生自身が教師になった時にも役立つ経験となると思われる。

### 参考文献

- 1) JEARN <https://www.jearn.jp/>
- 2) 「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」第 6 版 開発教育協会 2020
- 3) bitmoji <https://www.bitmoji.com/>